

木版画（単色） 凸版

□主に扱う学年・時間

4～6年 10時間

□はんがの特徴

- 木の板を主に彫刻刀で彫り、紙に写し取る版画
- 彫った部分が白くなる
- 白・黒のハーモニーが美しい

□準備する材料・用具

- ①版木（シナベニヤ板が多い）
- ②彫刻刀 平・丸・三角・切り出し
- ③和紙等インクを吸いやすい刷り紙
- ④水性または中性版画インク
- ⑤バレン ⑥インク練り板
- ⑦鉛筆 ⑧カーボン紙
- ⑨ローラー ⑩トレーシングペーパー
- ⑪画用紙
- ⑫版画作業版があると安全



波・光

□授業のながれ

授業のながれ(子どもの活動)	教師の準備・支援
<p>1 版画にしたい場面を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな場面を描こうかな ・生活の中から ・友達 ・動物 <p>2 版木に絵を描く（下記の方法がある）</p> <p><方法①></p> <p>ア 版木に直接下絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版木に4Bぐらいの鉛筆で直接、濃いめに下絵を描く <p>イ 版木に薄墨を塗る</p> <p><方法②></p> <p>画用紙などに下絵を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版木と同じ大きさの画用紙などに6Bぐらいの鉛筆、コンテなどで下絵を描く 	<p>1 参考作品を見せる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩の作品があると参考になる <div style="text-align: center;"> </div> <p>2 できあがりは左右反対に写ることを確認</p> <p>！方法①の場合できあがりは左右反対に写る</p> <p>！左右反対になって困るテーマは方法②、③を使う</p> <p>②、③は下絵と同じ向きになる</p>

- ・下絵を裏返して版木にのせる
- ・上からバレンで強くこすり転写する
- ・転写された線は薄いので、油性ペンなどで線の上からはっきり描く
- ・版木に薄墨を塗る



！版木に薄墨を塗る作業はなくても良いが、塗ってあると彫刻刀で彫った線がわかりやすい

<方法③>カーボン紙で転写する

- ・下絵を画用紙などに描く
- ・下絵をトレーシングペーパーで写す
- ・下絵を写したトレーシングペーパーを逆にしてカーボン紙で版木に写す
- ・薄墨を塗っておく

！版木に石けん水を塗り、下絵をプレス機で転写する方法もある

！転写するときズレないように、セロテープなどで止めておく

3 版画の白・黒を決める

- ・1で描いた下絵に、黒くするところを墨汁や水性ペンで塗る



トレーシングペーパーで写す

あまり白が多くなりすぎないように！（黒が6～7割ぐらいあった方がよい）
木版画（単色）は、白い部分・黒い部分をよく考えるよう指導しよう

陰刻と陽刻

木版画には陰刻と陽刻がある 人物を例に陰刻と陽刻を考えてみる

- ・人物を黒くするか 白くするか 描いた線を彫るか 描いた線を残して彫るか

ア 陰刻

描いた人物の線を彫る



あまりにも変化がなく
白黒のハーモニーの美しさ
とはほど遠い

イ 陽刻

人物の下書きの線を残して
線の周りを彫る



彫りすぎて白くなりやすい
ので白黒の計画を

！こんな彫り方をよくする！
[右半分の彫り] 顔や腕の周りは白く彫る必要がある？ [左半分の彫り] のように白い胴体の線を彫れば周りとの境界はできるはず 子どもに気づかせよう！

「ア 陰刻」の例のような子どもはいないだろうか

- ・何も指導しないとすぐ丸刀で描いた線を彫ってしまう
 - ・このように、すぐに「形の輪郭線」を彫らせないよう十分指導しよう
 - ・計画的に彫らないと、耳や頭など大事なところが離れてしまう
 - ・主題を生かすよう「白くしたいところを彫る」こと！
- ただし彫るときは、あまり下描きの線にこだわらず、思い切ってリズムよく彫る

主題を生かす白黒の決め方 (以下は下書きを墨で塗った例)

まず大まかに人物(顔)を白くするか、黒くするか決める

ア 顔を白くして周りを黒くする
白い顔がはっきりする



イ 顔を黒くして周りを白くする
周りの雰囲気、空気感、光などを出しやすい



ウ 顔を白くして、髪・服を黒くする



エ 顔を白くして周りも白くする
顔を浅く彫ってハーフトーンを出す



オ 顔の丸みや、腕の丸みを出す
彫刻刀の種類や彫り方も工夫する



彫刻刀を工夫してこんな感じの彫り方も
できる(平刀、切り出しで引っ搔いてぼかす)





海の下絵をもとに

4 彫る

4年生で初めて彫刻刀を使う。最初が肝心。安全な持ち方、安全な彫り方の指導を

- ①彫刻刀の使い方を覚えよう
 - ・刃の先には手を置かない
 - ・けがをしないように彫る
- ②どこを白くしようか
 - ・どのように彫ろうか
 - ・どの彫刻刀を使おうか
 - ・線の周りを彫ろうか
 - ・線を彫ろうか
 - ・途中で試し刷りをしてもよい

- ③彫りの完成
版木の上の切りくずやゴミをきれいに落とす

5 刷る

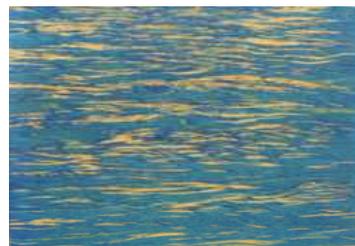
- ①インクをインク練り板に出す
 - ・一度にたくさん出さないよう
- ②インクをローラーでよく練る
- ③ローラーでインクを版木に付ける
- ④③のあと版木の下にきれいな見当紙を敷く
- ⑤刷り紙をのせる
- ⑥バレンで刷る
 - ・刷ったら版木に手のひらをのせてま
ず半分刷りの様子を見る
 - ・刷りが悪かったら再びインクを付け
る
 - ・もう半分のようにすを見る

以下は特に「版画の用具・用語辞典」参照

- ①彫刻刀の刃先に手を置かない
 - ・版画作業版があればうまく使う
- ②彫刻刀によって彫った感じが違う
 - ・細い線は三角刀か小丸刀を使う
 - ・丸刀では線が太くなりすぎる

- ・すぐに下書きした線を彫らない
- ・計画的に、白くしたいところを彫る
- ・白黒の比率が大切。白を多くしすぎない。
- ・主題を生かすよう白黒を決める
主題を黒くして周りを白くする
主題を白くして周りを黒くする

- ③刷ったとき刷り紙にゴミがつかないように
きれいにしよう



白い波の部分を彫った

- 5 刷る台の上に新聞紙を敷く
 - ・更紙、ぼろ布、刷り紙などを準備

- ①中性のインクが使いやすい
 - ・油性は後始末が大変
 - ・水性はやや刷りに味わいや深みがない
- ②インクがハネないようにゆっくり
- ③版木の隅々までインクをつける
 - ・インクを一度にべたべたとつけないで、
少しずつつけて刷ると、浅く彫ったとこ
ろが黒くつぶれない。
- ④刷り紙がずれないように、2人ペアで慎重に
版木の上ののせる
 - ・刷り紙の大きさは版木より四方5cm以
上大きいサイズ
 - ・手のひらをつかって全体に丸く刷る

- ⑦さあ 刷り上がり！
・慎重にめくって やったあ 刷れた！

- ⑧後片付け
・版木をぼろ布で拭く（水道で洗う）
・ローラー、インク練り板を水道で洗う
・ローラーは新聞紙の上で何回も転がして汚れをとっておく

- 6 鑑賞会
楽しい鑑賞会にしよう

- ⑧水性、中性インクで刷った場合は版木を水洗いする

- 6 友達とはんな版画ができたかな
思ったことをどんどん発表しよう

なお、木版画については一番取り組まれる機会が多いと思われるので、本稿には3名の先生方から実践をお寄せいただいた。

下絵の描かせ方、白黒の決め方、彫り方、刷り方など、永島先生、永井教頭先生、伊藤先生それぞれに細かいところまで配慮が行き届き、すぐにでも授業で使えるアイデア満載の実践である。ぜひ参考にさせていただきたい。



- ・小丸刀はほんの浅く
- ・釘の頭を丸めて
- ・釘の太さも変えて

彫刻刀の小丸刀・三角刀を使って浅く彫り、併せて釘を使いこつこつと点を打ってできた作品（1987 中学生作品）